

「泰阜村」と「方正県」友好提携から20周年

～長野県「泰阜村」と黒竜江省ハルビン市「方正県」友好提携20年の歩み～

飯田日中友好協会理事長 小林 勝人

1. 友好提携の経過

方正県といえば「方正日本人公墓」のある日本人として忘れる事の出来ない、いや忘れてはならない加害と、被害の重い歴史を認識する大事な場所である。一方、泰阜村といえば、NHKの「忘れられた女たち」の放送を思い出す人が多いと思われるが、長野県の山村で、かつて多くの満蒙開拓団を送り出した村として思い出される山村である。

この二つの地区を結びつけたのが、戦前中国東北部に分村移民として多くの開拓団員を送り出した「満洲泰阜分村開拓団」であった。この満洲泰阜分村開拓団の入植地は、現在の黒竜江省佳木斯市華南県大八浪郷である。ここに昭和14年2月1日入植式を行い、15年から家族招致を行った。最終的には1,144名（泰阜村以外の村を含む）が入植し、敗戦時を含め死亡者627人、不明44人を出した。（『長野県満州開拓史』より）

特に、昭和20年8月9日のソ連侵攻により、閻家駅に終結するも列車に乗れず、徒歩による「いわゆる」死の逃避行を行い、20日余りかかって方正県に辿り着いた。しかしこの逃避行において多くの命を失いやっと辿り着いた収容所で、寒さと飢えで、又多くの命を失った。その結果、多くの残留孤児、残留婦人が発生し、方正県の方々に引き取られ、養父母に育てられたという。分村開拓団を送り出した「満洲泰阜分村開拓団」は敗戦時、過酷な逃避行を強いられたなか、逃げ延びた先の方正県で飢えや寒さから助けられた歴史的背景があった。

特に国交回復の遅れた事情のなかで、祖国から見放された残留婦人、残留孤児を実の子と同じように、いやそれ以上に育ててくれた養父母の温かい「慈愛」に、感謝の気持ちが強く



残っている。このため、助けてくれた方正地区の人々を友だちとして、更に自分達の第二の祖国、故郷としてお互いが尊重し、大切にしていけることが、あの時受けた恩を活かしてゆけるのではないかと考えたのである。こうした中、多くの村民の賛同を得て20年前の、1997年9月27日に方正県と友好交流の覚書が締結された。（左の写真は方正県で行われた調印式の様子）

この時の訪中団一行は、松島貞治村長を団長として、林昌樹議長を副団長に議会から4名、大八浪会3名、泰阜南小学校清水重美校長、同校生徒牧野なおみさん、県日中桜井敬司交流部長、秘書長に村づくり主任の12名が、9月26日～30日の日程で訪中し、9月27日方正県の方正賓館において調印式が行われた。（別紙1：泰阜村と方正県との友好交流に関する覚書のとおり）

2. 友好提携 20 年の歩み

泰阜村と方正県との友好交流は、「友好交流の覚書」を締結する以前から、中国帰国者との交流会や、中国残留日本人等の情報交換などで方正県人民政府から来村訪問が行われていた。こうした実績を踏まえて 1997 年の締結へと繋がったのであった。

これら、友好提携 20 年の歩みの主なものを挙げれば次のとおりである。

(提携以前)

1988.09 泰阜村→方正県	第 1 次訪中団 (団長宮下明男村長ほか訪中) / 帰国希望者の調査と手続説明会等。
1994.03 方正県→泰阜村	方正県王県長はじめ政府関係者 5 名泰阜村来村帰国者交流会、帰国者体験発表会等。
1994.10 方正県→泰阜村	ハルビン市長、方正県長ら 5 名泰阜村来村帰国者交流会参加等
1995.01 方正県→泰阜村	ハルビン市長、方正県長ら 4 名泰阜村来村帰国者交流会参加等
1996.10 方正県→泰阜村	方正県除県長及び政府関係者 4 名泰阜村来村友好提携検討協議

(提携以降)

1997. 09 泰阜村→方正県	松島村長ほか 12 名訪中 / 27 日に友好提携締結調印式。
1998.09 泰阜村→方正県	泰阜村大八浪会池田純団長以下 33 名 / 訪中 方正県政府訪問、中国洪水被害見舞金贈呈。
1999.01 方正県→泰阜村	方正県 王県長及び人民政府関係者 5 名泰阜村来村 / 村民と友好交流 保育園小中学校訪問 村内企業視察 南信州観光。
2000.09 泰阜村→方正県	泰阜村大八浪会池田純団長以下 41 名訪中 / 方正県政府訪問、日本人公墓墓参、大八浪開拓団跡地訪問。
2010.08 泰阜村→方正県	泰阜村訪中団木下長門団長以下 20 名 / 一般、帰国者、中学生、方正県政府訪問、日本人公墓墓参、第三中生徒と交流等訪中。
1999.07 泰阜村→方正県	第 1 回泰阜村中学生研修旅行 23 名 / 方正県第三中学校生徒、人民政府表敬訪問、日本人公墓墓参 以下延べ 86 名が訪問。
2000.07 泰阜村→方正県	第 2 回泰阜村中学生研修旅行 19 名 /
2001.07 泰阜村→方正県	第 3 回泰阜村中学生研修旅行 18 名 /
2002.07 泰阜村→方正県	第 4 回泰阜村中学生研修旅行 15 名 /
2004.07 泰阜村→方正県	第 5 回泰阜村中学生研修旅行 11 名 /
2001.10 方正県→泰阜村	第 1 回方正県第三中中学生徒 4 名訪問交流 / 以下延べ 13 名訪問。
2002.10 方正県→泰阜村	第 2 回方正県第三中学校生徒 2 名訪問交流 /
2004.10 方正県→泰阜村	第 3 回方正県第三中学校生徒 3 名訪問交流 /
2010.10 方正県→泰阜村	第 4 回方正県第三中学校生徒 4 名訪問交流 /
2005.12 泰阜村→方正県	泰阜村教育委会+グリーンウッド 3 名方正県訪問 /
2008.03 方正県→泰阜村	方正県王宣伝部長と方正テレビ局番組制作訪問 /
2015.07 方正県→泰阜村	方正県劉農業局長他関係者 4 名及び農業研修生 3 名来村 / 泰阜村農業視察と交流。



※ 1) 泰阜村中学校生徒が方正県第三中学校生徒と延べ 5 回 / 86 名が訪中して交流。

2) 方正県第三中学校生徒が泰阜村中学校生徒と延べ 4 回 / 13 名が来日して交流。

3. 20周年記念式典と祝賀のつどい

泰阜村と方正県との友好交流20周年を祝う式典ならびに祝賀のつどいは、2017年1月16日、泰阜村の「あさぎり館」で松島貞治村長をはじめ、多数のご来賓、関係者の出席を得て盛大に開催された。式典は、「泰阜太鼓」の打ち鳴らす友好提携20周年の式典に相応しい響きのなかで開幕し、続いて「20年の歩みスライド」が上映され、帰国者をはじめ、参加者全員がこの20年を振り返った。



これに続き、主催者の松島貞治村長から、帰国した開拓団員から「方正で助けられた」という話をたびたび聞いて参りました。これが友好提携の原点です。と

20年前を振り返り、隣国と戦うような愚かなことをしない決意を改めて確認。今後の友好交流の進め方について、地域同志が仲良く出来る方策を考えてきたが、なかなか上手くいかない。じゃあ何が出来るのか、皆さんから具体的に「泰阜と方正との友好交流」の提案を頂き、新たな気持ちで人と人の草の根の交流を地道に進めて行きたい、と提案を含めた挨拶があった。これに続いて出席のご来賓の挨拶があり、その中で、宮下一郎代議士からはメッセージを尾関秘書から伝えられ、高橋岑俊地元県議から、無欲の心の交流を。また、大月良則長野県国際担当部長から、長野県は中国と10か所に亘る都市や地域と活発な友好交流活動をしている。と現状報告。過去の満蒙開拓の歴史に向き合う平和記念館の語り継ぎ活動を通して、今後の友好交流をしっかりと進めてください。と挨拶。方正友好交流の会の大類善啓事務局長から、方正の「日本人公墓」に触れ、侵略加害の側である日本人の墓を建ててくれたことに驚いた。と前置きして、周恩来の国際主義的精神に敬意を表したい。その後、羽田澄子監督制作の映画「嗚呼満蒙開拓団」にも触れ、昨年、天皇、皇后両陛下の満蒙開拓平和記念館訪問実現など、今日の方正県との友好交流に繋がっている。と激励の挨拶をいただいた。また、長野県日中友好協会の布施正幸事務局長から、泰阜村が進めて来た方正県との友好交流こそ、一番深い因縁のある大事な交流である。と話され、国レベルの友好交流は難しい面もあるが、人と人の交流では中国から年間640万人が、個人の意志で来日している。この人たちは日本は良いところだ。と感激して帰っている。このことから、自信を持って「人と人の交流」を進めてください。と挨拶があった。又、方正県長からのメッセージを披露（別紙1）。続いて「方正県への想い（別紙3新聞記事）」を中国から帰国された「池田純」さん、残留婦人の2世で長く中国で生活して帰国された「川島波子」さん、また第1回（1999年7月）の方正県第三中学校との交流事業に参加した「吉岡利貴」さんから、一般人同士の草の根交流を若い感覚で促進したいと。話されるなど、三人のそれぞれの立場、体験からの話に感銘を受けたとの声を多く聞かれた。このあと、賑やかな出し物もあって、有意義な中に会は終了した。



以上

（こばやし・かつと：1940年生まれ。長野県飯田日中友好協会理事長。）

(別紙1) 方正県からのメッセージ

泰阜村長
松島 貞治 殿

方正縣と泰阜村の間に友好都市締結20周年の際に、私は方正縣の人民政府と縣民の代表をさせて頂き、村長様と泰阜村の皆様へ最大なあいさつを申し上げます。

方正縣と泰阜村は相互の友好と協力を願うことを宣言し、友好都市の契りを結んでから、はや満20年を迎えることとなりました。この20年間に、お互いの友好関係が深まり、着実に実を結んでまいりました。「人と人の友情を高める、世界の平和を守る、お互いの発展を促す」を基盤として、お互いの発展と繁栄、より一層、友好関係が深まっていくことを念願してやみません。

終わりに臨み、泰阜村の繁栄と村民の皆様のご幸福をお祈り、またお互いの永遠の友情と平和に貢献することをご祈念いたしまして、あいさつとします。

方正県長 張 建华
2017年9月30日

(別紙2) 泰阜村と方正県友好交流に関する覚書

(別紙3) 2017.11.18 付南信州新聞(転載)

日本国長野県泰阜村と中華人民共和国哈爾濱市方正県との
友好交流に関する覚書

中国哈爾濱市方正県人民政府の招請により、松島貞治村長を団長とする日本国長野県泰阜村代表団は1997年9月27日から28日まで方正県を訪問した。滞在期間中、代表団は方正県人民政府を表敬し、双方代表及び関係者は率直で友好的な雰囲気の中で有意義な会談を行った。双方は友好往來を強化し、それぞれの分野の交流と協力を発展、促進させるなどのことに関し、十分な検討を行い、次の通り合意した。

- 一、 両村県は、相互理解と平等互恵の上で、経済、文化、農業、科学技術、教育、体育などの分野で交流と協力を積極的に推進し、双方の繁栄を促進し、子々孫々の友好関係を発展させることに共同努力すること。
- 二、 双方間の友情と友好関係のさらなる発展を促進させるため、双方は、公式代表団を相互派遣させ、また、対等交流の形式で5人、10日間を原則として、国際交通費は自費負担とし、入国後の費用は相手負担とする。代表団の訪問期間、訪問コース、考察訪問の内容等の具体的なことについて、事情により双方の協議の上定めること。
- 三、 両村県の民間交流は原則として自費負担とすること。
- 四、 両村県は、この覚書に定める交流事項の実現に鋭意努力すること。
- 五、 以上の各事項を実施していくため、泰阜村村づくり研究室と方正県外事弁公室を双方の連絡窓口とすること。
- 六、 以上の各事項については、今後双方は、具体的に実施させる前に一層協議し、またこの覚書にない事項については、両村県は、事情により協議を行うこととする。

本覚書は中国哈爾濱市方正県にて調印し、日中両国語で一式二部ずつ作成し、同等の効力を生ずる。

一九九七年九月二十七日

日本国
長野県泰阜村
村長

松島貞治

中華人民共和国
哈爾濱市方正県
副 県長

井尚

泰阜村と中国黒龍江省ハルビン市方正県が友好提携を結んで20周年を迎え、16日に同村田本のあさぎり館で開かれた記念式典で、残留孤児だった村民や20年間方正県で暮らした2世らが体験を語る機会が設けられた。

「満州泰阜分村」の歴史がある同村は、1933年から1100人以上の村民が中国江省の大八浪へ開拓に赴き、敗戦後は苛酷な逃避行を強いられた。一方、逃げ延びた先の40(昭和15)年方正県で飢えや寒さから助けられた歴史的背景があり、同村は97年、その恩恵に純さん(86)は、うに育ててくれたでも肌身離さず持

方正県で育った方正県に開拓団に参加して、53年に帰国し、仕事で懸命に行つた同村左京の池田中、わが子のよ「養父の写真は今のうちに育ててくれたでも肌身離さず持

「将来は泰阜村と方正県の架け橋になつてくれたらうれい」と願つた。中学2年生のとき交流研修旅行で方正県を訪れた、村役場職員吉岡利貴さん(31)は「互いの言葉が通じない中、ジェスチャーで意思疎通を図つた。思いを伝えることはできる」とし、一般

感謝して友好提携を締結している。式典の席上、帰国者の話として3人が体験や思いを語つた。

体力の限界から母と一緒で養父の世話になつた経験を振り返り「助けをもらえなかつたら、いまの私は育つて、91年に暮らした。中国語で語つた。9歳の娘が中国や方正県に興味を示していることから「将来は泰阜村と方正県の架け橋になつてくれたらうれい」と願つた。中学2年生のとき交流研修旅行で方正県を訪れた、村役場職員吉岡利貴さん(31)は「互いの言葉が通じない中、ジェスチャーで意思疎通を図つた。思いを伝えることはできる」とし、一般

養父母、交流に感謝

泰阜村と方正県 友好20周年で帰国者語る



方正県での体験や思いを語る帰国者ら

人同士の草の根交流を若い感覚で促進していきたい」